

## I 北町ぼうさいアクションとは？～活動背景とまちの課題～

### 六角橋北町地区ってこんなとこ

六角橋北町地区は、神奈川区の北端に位置し、岸根公園の南側に隣接する住宅地で、約2,700世帯の方々が暮らしています。

当地区は、旧交通安全センターやコンフォール北原団地といった大規模敷地や、横浜上麻生道路沿道には、多くの事業所が立地する一方で、地区内は高低差のある地形で、坂道や狭い道路が多く、そこに住宅が密集しながら立ち並んでいます。

そのため、火災が起きた際の延焼や、いざという時、緊急車両が通行できないエリアや、行き止まり路などにおける避難路の確保の必要性など、防災に対しての課題を多く抱えており、横浜市が指定する地震火災対策エリアの重点対策地域（不燃化推進地域）に位置付けられています。

また当地区は、昔からこの地域で暮らす世帯だけでなく、新たに若いファミリー世帯や近隣の大学に通う学生など、多様な方々が暮らす地域であり、いざという時に備え、住民同士の日頃からのつながりづくりも課題となっています。

### 北町ぼうさいアクションとは

防災まちづくりは、地域にお住まいで自治会に加入している方だけの問題ではありません。地主さんや大家さん、アパートで生活する学生さん、事業所を営む方なども含めた地域の全員で考える問題です。そこで、自治会とは別に対象を広げて多くの人が参加できる団体を作るべきと考えました。

そこで、先ずは北町自治会長、自治会防災部の方々をはじめ有志により令和5年に「北町ぼうさいアクション」を立ち上げました。

今後、様々な活動を通して、住民一人ひとりが興味・関心を持つことで、地域が一丸となった防災まちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

### 防災まちづくりプランの目的

当地区では、これまでまちなかへの消火器設置や防災訓練を実施してきました。また、防災防犯ハロウィンウォークや防災の集いなど多様な世代が楽しく防災に触れられるイベントなども企画・実施してきました。

しかしいつおこり得るか分からない大地震に対して、これまで実施してきた活動を続けるだけでなく、避難路の確保のための道路対策や燃えにくい建物への建替え、防災設備等の充実など、総合的な防災まちづくりを進めていくことが必要です。また、住民一人ひとりが地震や火災等の災害に対し、他人事ではなく自分事として考えていくことが大切です。

防災まちづくりプランは、自分たちの地域は自分たちで守るために、災害に強いまちづくりを進めていく上での活動方針を示した六角橋北町地区における防災活動の羅針盤となるものです。



出典：「横浜市密集市街地における地震火災対策計画～資料集～」  
令和5年4月



## II 北町ぼうさいアクションの大目標（スローガン）

たす  
あ  
いのち  
まも  
ひ  
**助け合いが命を守る 日ごろのつながり**

**きたまち  
北町**

## III 防災まちづくり大方針

### 大方針1. もしもの時に頼れるいつもの関係【人のつながり】

災害時一番大切なのは、六角橋北町地区で暮らす人同士での助け合いです。

そのためにも、住民同士や周辺の事業者の方々との日頃からの関係性を築いておくことが大切で、災害時も助け合えるまちを目指します。

### 大方針2. 災害に強いまちへのグレードアップ【まちの基盤】

万が一大規模災害が起きても安全な避難ができたり、災害後も安心して生活をし続けるためには、まちの基盤が整っていることは重要です。

安全な避難経路の確保や、燃えにくい建物、防災広場の確保などにより燃え広がらないまちをつくっていくなど、災害に強いまちへ更新していくことを目指します。

### 大方針3. 助け合いの土台となる日々の活動【発災時ための事前準備】

いざという時、スムーズな災害活動をしていくためには、日頃からの活動が重要です。

繰り返しの訓練で災害時の行動を体で覚えることや災害に備えた話し合いなどの積み重ねにより、もしもの時もスムーズに共助活動ができるフェーズフリー<sup>\*</sup>なまちを目指します。

\*フェーズフリー：身のまわりにあるモノやサービスを、日常時はもちろん、非常時にも役立つようにデザインしようという考え方

### 大方針4. 一人ひとりが防災マイスター【自分の備え】

災害から命を守るには一人ひとりの日頃からの備えが基本となります。

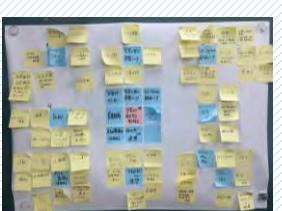
地域として住民一人ひとりの防災意識を高めていくための支援・啓発を行い、六角橋北町で暮らす一人ひとりが防災マイスターのような自助力のあるまちを目指します。

## 防災まちづくりプランができるまで

- マンダラチャートで必要な取組みを洗い出し

北町ぼうさいアクションでは、防災まちづくりプランの検討にあたり、大谷翔平が世界一のプレイヤーになるために使った目標達成シート「マンダラチャート」を活用し、各委員で必要な取組みを出し合いました。

マンダラチャートを使うことで、色んな視点から防災を考えることができ、幅広い取組提案につながりました。



### 防災イベントでまちの人から防災に関する不安ごとをリサーチ

地域の方々が防災に関して、どのようなことを不安に感じているかを把握するため、令和6年6月には「北町学ぼうさいウォーク」を実施しました。

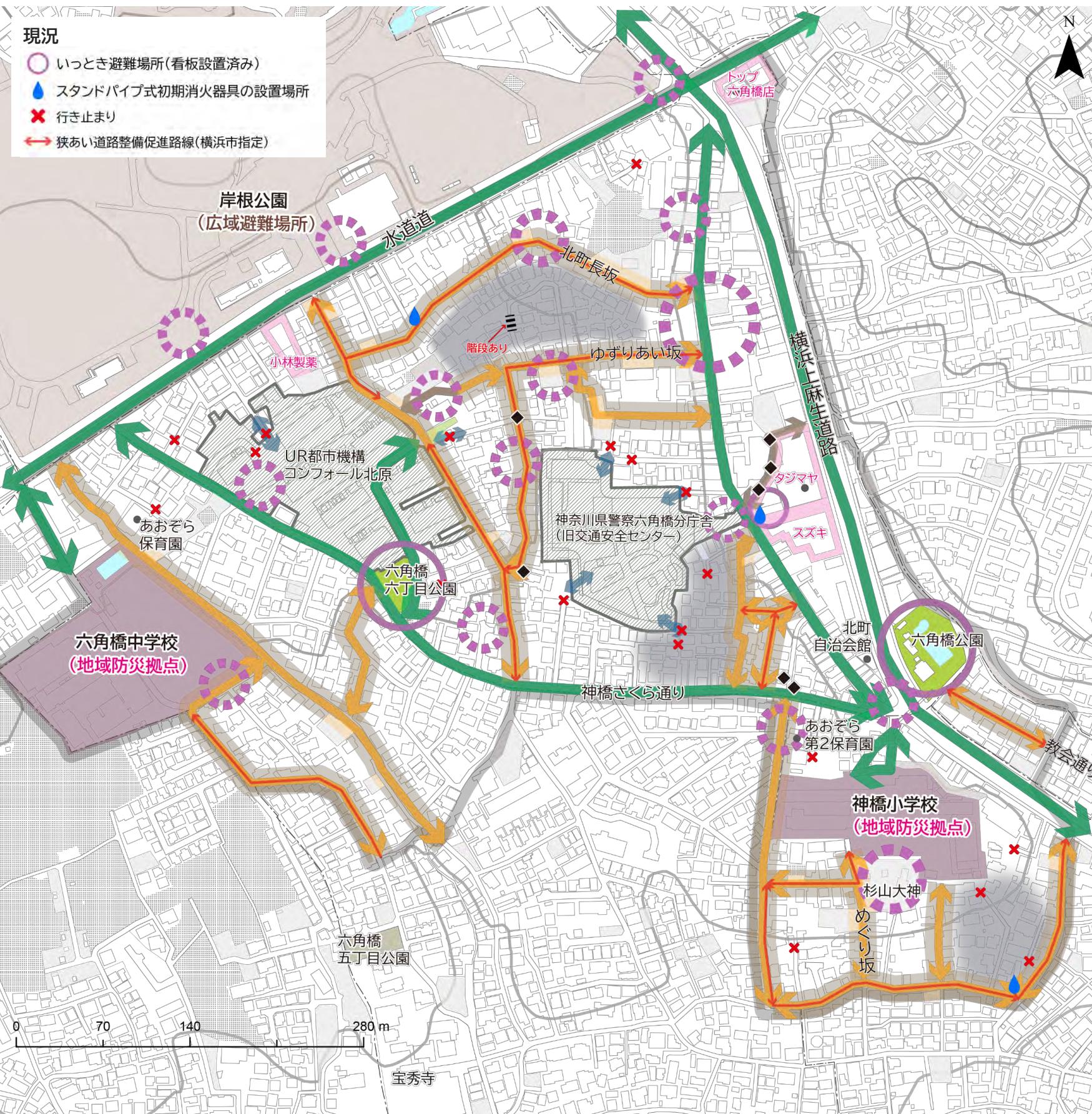
神奈川消防団第7分団の方々に協力いただき、防災まちあるきや消火栓の\_fk\_あけ体験とあわせて、パネルアンケートを実施しました。



## IV 防災まちづくりめざすマップ（方針図）

次頁以降の取組内容を参照

「防災まちづくりめざすマップ（方針図）」とは、北町ぼうさいアクションの活動により目指すまちの姿を地図で示したものです。



### 取組方針

項目	位置付けや取組方針など	方針番号
地区の重要な道路とその沿道建物	消防車が通行可能な、地区の骨格となる道路として、沿道の建物の不燃化など安全に避難ができるみちづくりを積極的に働きかけていきます。	大方針2の取組1
避難をする上で重要な道路とその沿道建物	「地区の重要な道路」にアクセスするための道路です。避難の主要動線となることから、狭い道路の整備や沿道のブロック塀の撤去など安全に避難ができるみちづくりを積極的に働きかけていきます。	大方針2の取組1
避難をする上で重要な通路とその沿道建物	「避難をする上で重要な道路」を補完する動線として、沿道の安全確保を働きかけていきます。	大方針2の取組1
通り抜けを検討する場所	行き止まりの解消のため、避難扉の設置など通り抜けの検討を進めています。	大方針2の取組2-1-3
特に建物が密集しているエリア	特に建物が密集しており火災による延焼等が懸念されることから、建物の不燃化の促進やまちなか防災広場の整備などを積極的に働きかけていきます。また、行き止まり道路の通り抜けなど、安全な避難ルートの確保を検討していきます。	大方針2の取組2
防災機能を高めていく公園	雨水貯留タンクやまどベンチの設置など、公園の防災機能を高めていくとともに、それらを活用した防災訓練など地域の防災活動拠点として活用していきます。	大方針2の取組2-2-2 取組2-2-5
地区内の大規模敷地	地区内にある貴重な大規模敷地としていっぽき避難場所や通り抜けの確保のための連携を検討していきます。	大方針1の取組1-3-3 大方針2の取組2-1-1 取組2-1-3
いっぽき避難場所の検討地	いっぽき避難場所の候補地として地権者の方との話し合いや看板設置を進めています。なお指定にあたっては、崖地整備など周辺の安全確保を働きかけます。	大方針2の取組2-1-1
避難の妨げになる電柱や街灯など	避難の妨げになるような電柱や街灯などは、道路の端や近隣宅地への移設等を働きかけていきます。	大方針2の取組2-1-6
災害時支援をお願いしている事業所	いっぽき避難場所としての開放や物資供給など、災害時の連携をお願いしていきます。	大方針1の取組1-3-1

## V 取組方針

### 大方針1. もしもの時に頼れるいつもの関係【人のつながり】

六角橋北町には、子育て世代から高齢者まで多様な世代の方々が暮らしています。一人暮らしの高齢者や、学校が終わってから家族が帰ってくるまでお子さんが一人で待っているご家庭など、災害時に家族が別々の場所にいるときの不安に関する声もあがっています。

いつ起こるか分からずの大震でも、隣近所の人と助け合える、そんな安心したまちを目指し、日頃から地域の人とコミュニケーションや交流を持つ機会をつくっていきます。また、地区内には複数の事業所が立地しているのを活かし、連携体制を整え、いざという時に備えていきます。

#### 背景にあるまちの課題等

- ・若い世代の参加が少ないため、まずは関心を持ってもらえる機会をつくることが必要
- ・一度の参加をきっかけに、日頃からの関係性をつくっておくことが重要
- ・地区内にある様々な事業所と連携していくことが望ましい

### 取組1 住民同士の交流の機会づくり

#### 1-1-1 多世代が参加できるイベントの実施

### 取組2 日々のつながりづくり

- 1-2-1 まちの見回り活動
- 1-2-2 向こう3軒両隣での情報共有
- 1-2-3 自治会の輪番制役員との関係づくり
- 1-2-4 まちの人の得意ゴト把握
- 1-2-5 近所で手助けが必要な人を知る

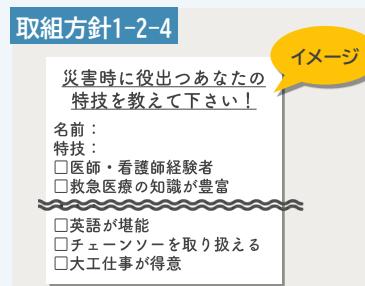
### 取組3 様々な団体や企業との関係づくり

- 1-3-1 地区内事業者等との連携（防災活動等における協定締結など）
- 1-3-2 周辺町会等との情報交換
- 1-3-3 UR都市機構コンフォール北原や神奈川県警察六角橋分庁舎（旧交通安全センター）との連携

## 解説



若いファミリー世帯にも関心を持つてもらえるようなイベントを企画・実施していきます。



日頃からまちの人の得意ゴトを把握することで、災害時の共助に役立てていきます。



いっとき避難場所検討地では、地権者の方と話し合いを進め、指定した場所では看板設置を進めます。

### 大方針2. 災害に強いまちへのグレードアップ【まちの基盤】

六角橋北町は、狭い道が多く、建物が密集しているため、火災が起きた際の燃え広がりが心配される地域です。そのため、万が一火災が起きても燃え広がりを抑えることができるよう、一つ一つの建物を燃えにくい建物にしたり、安全な避難ができるよう、ゆとりある道路を確保していくことが必要です。

地域としてまちなかに防災設備の充実を図っていくとともに、市の助成制度について周知・説明する機会をつくるなど、各家庭での対策に向けた働きかけをしていくことで、住民一人ひとりが自分事として捉え、まち全体で災害に強いまちへと更新していきます。

#### 背景にあるまちの課題等

- ・建物が密集しており、火災による燃え広がりが不安
- ・空き家や手入れのいきどいていない植栽等は、火災を招く恐れがある
- ・行き止まり道路が多く、二方向避難が確保できていない場所がある
- ・狭い道路沿いのブロック塀などは、倒壊により避難通路をふさぐ恐れがある

### 取組1 安全に避難するためのまちづくり

- 2-1-1 いっとき避難場所の確保と看板設置
- 2-1-2 狹い道路の整備に向けた働きかけ
- 2-1-3 避難扉の設置などによる行き止まり道路の解消
- 2-1-4 ブロック塀の撤去の働きかけ
- 2-1-5 急坂や階段状道路における安全対策
- 2-1-6 避難の妨げになる電柱や街灯の移設の働きかけ
- 2-1-7 避難経路等の看板設置

### 取組2 燃えにくい燃え広がらないまちづくり

- 2-2-1 燃えにくい建物への建替えへの働きかけ
- 2-2-2 まちの消火器やスタンドパイプ初期消火器具等の防災設備の拡大
- 2-2-3 危険な空家や樹木への働きかけ、空家の活用
- 2-2-4 まちなか防災広場の整備
- 2-2-5 公園や広場の防災性機能の向上
- 2-2-6 地区内の井戸の活用検討



定期的なまちあるきでブロック塀の現状を把握するとともに、地権者等へ助成制度を周知するなど撤去の働きかけを行います。



スタンドパイプ式初期消火器具等の設置拡大を検討していきます。



空き家などでは、所有者等と話合いながら、市の制度を活用した「まちの防災広場」の整備を検討します。

### 大方針3. 助け合いの土台となる日々の活動【発災時ための事前準備】

六角橋北町地区では、これまで消防団の方と連携しながら様々な防災訓練を実施してきました。しかし、普段、使い慣れない防災設備は、一度だけの訓練ではなかなか使いこなすことができません。

いつ起るか分からずの大規模災害に対して、繰り返し訓練を行ったり、防災備品を日頃から使いこなしておこうで、いざという時のスムーズな活動につなげていきます。

#### 背景にあるまちの課題等

- ・スタンダードパイプ式初期消火器具は使い方が難しいため、日頃からの訓練が必要
- ・いざという時、どのような行動をとればよいかがわからない

#### 取組1 いざというときの備え

- 3-1-1 防災訓練の定期的な実施
- 3-1-2 防災設備の点検・試運転
- 3-1-3 危険個所の把握と共有（定期的なまちあるき、防災マップ作成・更新など）
- 3-1-4 災害時の行動指針の検討（防災マニュアルの作成）
- 3-1-5 手助けが必要な人への支援方策の検討

#### 取組2 復興のための事前準備

- 3-2-1 復興後のまちづくりの事前検討（事前復興）



防災訓練は、子供向けイベントとコラボするなど多世代が参加したくなる工夫をしていきます。



防災設備は、防災訓練やイベントなどで、点検を兼ね活用することで、使い慣れをていきます。



復興まちづくりワークショップなど、地域で復興後のまちづくりを考える機会をつくっていきます。

### 大方針4. 一人ひとりが防災マイスター【自分の備え】

六角橋北町地区では、これまでの各家庭での防災備蓄の働きかけや防災講演会などを通じて一人ひとりの防災への関心を高めていく取組みを進めてきました。

まずは、六角橋北町で暮らす一人ひとりが、防災に关心を持ち、防災備蓄を用意したり、防災知識を身に付けることで、地域としての防災力向上にもつなげていきます。

#### 背景にあるまちの課題等

- ・各家庭に対して、様々な助成制度の周知が不十分である
- ・多くの人に情報を届けるため、多様な発信手段を活用することが必要

#### 取組1 一人ひとりの意識づくり

- 4-1-1 行政等による防災に関する助成制度等の周知
- 4-1-2 防災備蓄の呼びかけ・販売、防災グッズの紹介
- 4-1-3 家庭用消火器のあっせん

#### 取組2 多様な手段での情報発信

- 4-2-1 ニュースレター等の作成・配布
- 4-2-2 多様な発信手段の検討・実践
- 4-2-3 防災講演会など学ぶ・知る機会づくり

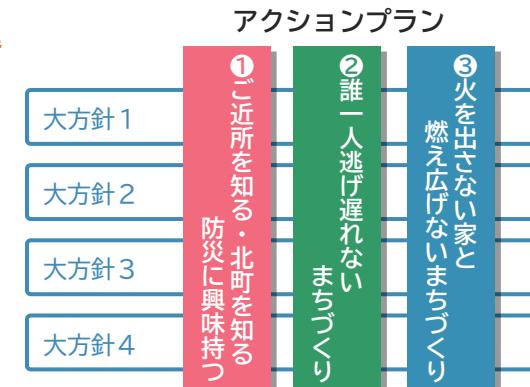
## VI 防災まちづくりプラン実現に向けた行動計画

### アクションプランによる着実な推進

○目標の実現に向けては、4つの大方針を横断的に整理した「アクションプラン」を作成し、優先的に着手していくべき取組みを整理していきます。

○「アクションプラン」は、防災まちづくりを進めていく上で最も大切な①住民同士のつながり、当地区で特に早急な対策が求められる②避難、③火災時の燃え広がりの3つのテーマを柱とします。

○「アクションプラン」は、進捗状況やまちの変化に応じて、定期的に更新していきます。



### コレもぼうさい！～いざという時に役立つ日常のあれこれ～

いっけん防災の取組みに関係しないような活動もいざという時に役立つことがあります。このような取組みを「コレもぼうさい」として位置づけ、日頃からの関係づくりや防災力の向上に役立てていきましょう。

例えば  
こんなこと！



関係づくり

- ◆日頃からのあいさつ
- ◆ゴミ端会議
- ◆自治会への加入

健康・体力づくり

- ◆健康づくり
- ◆サバイバル力をつける

まちを知る

- ◆ゴミ出しマナーの共有
- ◆近所を散歩